

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700334		
法人名	特定非営利活動法人 陽だまり		
事業所名	グループホーム 陽だまり		
所在地	岐阜県高山市下林町966番地の1		
自己評価作成日	令和6年9月26日	評価結果市町村受理日	令和6年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2172700334-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットと小規模な事業所ですが、2000年の介護保険制度が始まる頃の2002年3月開所から変わらず運営してまいりました。途中、法人代表者に変更がありましたが、当所からの理念や基本方針は変えず、生活する皆が支え合い共同で生活することを主軸に運営してまいりました。利用者さんは、認知機能の低下で短期記憶の喪失が早い方や自分がどうしていいかわからず迷う方等混乱される方が多くなされたように感じますが、職員はそばで少しでも混乱が落ち着き他の利用者さんと楽しんで生活していただけるよう言葉かけやご本人の思いを大切にしながら、安心して共に生活していただけるよう、時に法人理念である「穏やかに、ゆっくり、ゆっくり」を忘れないように職員皆で再確認しながら支援に努めるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、常に「利用者のために良いと思うことは実行してください」と職員に伝えている。家庭的な雰囲気と笑顔が見える明るい事業所で、近隣から果物や野菜等が届くなど、日常的に地域とのつきあいを重ねている。コロナ禍での運営推進会議は書面開催であったが、家族全員から文書で意見が寄せられており、意見や要望などにも丁寧に応えながら利用者と家族等の信頼を得ている。また、職員が専門職として経験や知見を活かしながら誇りや自信を持って働けるよう、職場環境作りにも取り組み、職員の資質向上とより良い利用者サービスにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修や定期開催をしているミーティングを通じて、繰り返し事業所の理念を伝え、新たに加わった職員については、理念に込めた考え・思いを説明することで共有し、日々の業務に悩んだ際に考えるようにしている。	忙しさの中にあっても、理念を立ち返りながら、穏やかであたたかい支援に努めている。利用者一人ひとりが安心して会話を楽しみ、自然な笑顔を引き出せるよう、理念である「おだやかに ゆっくり ゆっくり」を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5類に移行はされたものの、未だに新型コロナウイルスの影響はある中、試行錯誤し、地域の方との繋がりを大切にしている。ホーム内の様子などは通信等で発信し、地域のお祭り等にも参加させて頂くようになった。近隣住民の方にも散歩の際に声をかけて頂くなど少しずつではあるが、以前の日常を取り戻しつつある。	地域住民とは、散歩時に挨拶を交わしたり、会話を楽しんでいる。コロナ禍で自粛していた地域との交流も戻りつつあり、地域の祭りでは、神輿に職員の孫の参加もあり、利用者と一緒に楽しむことが出来ている。今後も交流機会を増やせるよう努めるとしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面式の開催を計画するものの、新型コロナウイルスの感染者が出てしまい、結果として書面開催となっている。参加者から毎回、協議事項について回答・質問を得ており、ミーティング等を行い質問については、適宜対応し反映するように、取り組んでいる。	コロナ禍での運営推進会議は書面開催とし、事前に家族に「回答票」を送り、届いた家族の意見や要望を把握しながら運営に活かしている。対面式での開催は、参加者が少なくなることも予想され、今後の開催方法について検討中である。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面開催に参加して頂いた支所の職員の方に通信等の閲覧をして頂くと同時に、資料提供させていただき、理解が得られるように取り組んでいる	管理者は、地域介護保険事業者会議の会長を担っており、市との連携は密である。行政はもちろん、介護事業者と意見交換を重ねながら、地域高齢者の現状や困難事例についても、現場の声を具申し、協力を仰ぎながら地域福祉の向上に繋げている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束を行はないケア・禁止対象となる行為とは何か、学ぶように取り組んでいる。ミーティングを通じて、何気ない日常の中にこそ落とし穴があると、その都度、管理者・ケアマネジャーより伝えて共有し、職員は個々により良いケアを日々模索し話し合うように取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、外部研修でも、身体拘束の弊害について学んでいる。事業所の行動指針や倫理綱領に沿って、常に利用者主体に考え、職員間で連携しながらケアを行い、あらゆる場面で拘束なしの支援を実践している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等通じて繰り返し伝え、管理者も介護職員と一緒に働き、職員の思いに耳を傾け、その都度話し合うなどし、未然に虐待が起きないように努めている。さらに管理者は職員が思い悩み、虐待につながらないように、職員の個別対応にも努めている	身体拘束廃止委員会の中で、虐待防止についても話し合っている。管理者をはじめ職員全体で利用者の身体面と精神面の状態を把握し、虐待を未然に防ぐ取り組みを行っている。管理者は日常的に職員とコミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自己研鑽の為、研修・講習に参加しやすいようにシフト調整をし、参加した職員が事業所内部研修で発表することで、研修等に不参加の職員にも共有して活用している		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所手続き際に、契約書・重要事項説明書等に記載している内容を説明し、一旦持ち帰って頂き再度読んで頂き、理解を深めていただくようにし、後日提出して頂く際にも質問等がないか確認し確認書類に署名頂くようにしている。料金改定等の際にも承諾書にて理解を頂くように務めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近はお忙しいご家族が多くなり、LINEの導入希望のご意見が多かったため、LINEを通じて、意見・要望を頂き管理者へ直接連絡が入るように取り組んでいる。又、職員にも家族の思いを共有し対応している。運営推進会議を通して外部へ発信もしている。	利用者の日常生活や外出の様子など、多くの写真を掲載した「陽だまり通信」を発行している。利用料の請求時にも行事や利用者の様子を報告している。家族が受診同行で訪れた際には、利用者の状態について説明したり、LINEで情報を共有するなど、信頼関係の構築に努めている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通じて、職員個々の考え・思いを聞き反映するように努めており、日常の中でも一緒に働く事で、提案等に迅速な対応を心掛けている。個別の対応をすることにより、職員間の諍いが起きないように取り組んでいる。	管理者も現場に入っており、日常的に職員から意見や要望を聞き取り、利用者サービスにつなげている。管理者は、職員との信頼関係を築きながら、それぞれが仕事に対する誇りとモチベーションを高められるよう、資格取得を奨励している。職員の定着率も良い。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員個々の考え・思いを聞き、実践につなげ、やりがいのある職場作りをする事で、職員が自ら考え実行し、成果を感じられるよう努めており、職員の向上心にもつなげている。休日などにも配慮し職員が働きやすい環境づくりにも努めている	職員それぞれが、自らの思いや考え方を管理者に伝えられる環境である。また、職員はワーク・ライフ・バランスと希望に添った就業条件が認められることで、気持ちよく従事することが出来ている。職員の心のゆとりが、利用者支援に好影響を与え、理念の実践につながっている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は管理者が高山地域介護保険事業者連絡協議会の関係者でもあるため、各、研修の主催もしており、研修参加をすすめ、内部研修にも取り入れている。また、2名の職員が介護福祉士試験に挑戦しているし、無資格者2名は認知症介護基礎研修の受講を昨年度までに終えている。	管理者は、職員との意見交換を通じて、やる気・自主性を上手く引き出している。職員個々の希望に添った研修の機会を確保できるよう、シフト調整にも配慮しながら、専門職としての資質向上に向けて、職員育成の強化に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	災害に備えるため、他事業所とも協定を締結し相互に助け合う体制の構築をしている。新しく開設した事業所にも職員と共に見学に行きサービスの向上に取り組んでいる。また、ケアマネジャーは継続して、他事業所のケアマネジャーと集まり見識を深めるよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者さんの性格や趣味趣向などを理解し、一方的な関係ではなく、共同生活を営んでいく上で、利用者さんが意欲的に参加できる関係性の構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が各々の勤務時間で利用者さんから得た情報を共有し、各職員が思い・感じた事をミーティングを通じて共有し、利用者さんの思いに添えるように努めている。	職員は、理念を常に意識しながら利用者に寄り添い、表情やつぶやき、会話の中で思いや意向を把握している。新たに知り得た情報は職員間で共有し、利用者の希望を叶えられるよう支援している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	15で記載した内容を取り組み、職員が意見などを言い合える関係性の構築に務めるとともに、本人・家族・必要な関係者と共有し、より良い介護計画の作成が行えるように現在取り組んでいる	小規模の利点を活かして、管理者、ケアマネジャー、職員が全利用者の情報を把握し、一人ひとりの状況をモニタリングしながら、意見交換を行なっている。介護計画は、本人主体の計画とし、家族、医師の意見を反映させ、現状に即して見直しも行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末を用いて、日常生活での様子は簡潔に記録しているが、職員が気づいた事や実践してみたことについては、つぶやきノート(敬称)に記録し共有している。また、それらの情報を活かして介護計画の作成にも活用している。	利用者の日常の様子はタブレットを使用し、簡潔に記録している。これまで出来ていたことが出来なくなった時は「気付きノート」にも記載している。知り得た情報は口頭でも伝え、個別記録等に残すことで情報を共有しながら、見逃しのない支援を実践している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員が担当利用者さんの思いを情報収集し、「何ができるか？」を考え、安全に配慮しホーム外の活動を企画し、必要に応じてご家族にも参加して頂き、柔軟な支援ができるよう努めている。また、管理者は職員が、不安を抱えることなくサービスが実施できるようにサポートしている。	利用者一人ひとりの様子を日々観察している。個別対応が必要な利用者には、家族の協力を得ながら、レクリエーションを兼ねた運動支援など、専門職が対応している。家族の希望に応じて、買い物代行を行っている。	

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	未だにコロナの影響があり従来通りの活動が出来ていない中で、外出の機会を徐々に増やし、地域の祭りなどにも参加させて頂くようになり、手探り状態ではあるものの、安全に配慮し、地域の方との繋がりを継続するように努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医をそのまま継続して頂き、利用者さん・ご家族が安心して受診していただけるようにしている。主治医へも必要に応じて情報提供させて頂き連携を図っている。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の指針を利用者、家族に説明し同意を得ている。利用者は入居前の医療機関を継続し、受診は家族が同行し受診結果を共有している。緊急時は事業所が対応し、利用者の主治医と必要に応じて情報提供しながら医療連携を図っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに情報提供し、入院中も利用者さん・ご家族が安心して療養出来るように継続的なサポートを心掛けており、病院からの要請があった場合は管理者・ケアマネが赴き連携している。退院の際も利用者さん・ご家族に配慮したサポートに努めている。	入退院時の医療機関との対応は、管理者とケアマネジャーが窓口となり、家族と連携しながら本人が安心して療養出来るよう支援に努めている。病院のソーシャルワーカー等との連携を密にし、早期退院に向けて受け入れ体制を整え、退院後の適切な支援につなげている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に重度化・終末期の方針をご家族と相談をさせて頂き、当ホームができる限りの支援を説明しており、十分に理解を深めて頂いてからご利用して頂くようにしている。また、他事業所様とも連携し、利用者さんが適切にサービスを受けれるように取り組んでいる。	契約時に運営方針をはじめ、自立に向けた支援、入浴介助や福祉用具の必要な場合など、詳細に説明し理解を得ている。重度化や終末期の対応については、早い段階で関係者が十分に話し合いを行い、情報を提供した上で、利用者が安心して医療機関や他施設への移行ができるよう支援している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに、職員は行動するように説明しており、日常生活の中で利用者さんの体調を把握し、少しでも不安があると思われる際は、看護師・管理者と情報を共有し、速やかに適切な対応をするように努めている。夜間時は看護師・管理者が即時対応できようしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	想定しうる災害についての訓練は適宜適切に実施している。各地で起きている災害を経験された方からの体験談を聞き、ミーティングを通じて、職員へ危機管理の重要性を説明している。近隣の施設との協定書も取り交わし、不測の事態への対応もそなえている。	年2回夜間想定を含めた防災訓練を実施している。必要な職員配置及び近隣等の協力体制も整えている。BCP策定と共に、備蓄品についても定期的に確認し補充を行っている。近隣の施設等とも連携し、緊急時の対応について検討している。	地域で過去に起きた災害について、近隣住民から聞き取ったり、ハザードマップ等を参考に、起こり得る災害種別や場所等の推測が必要な状況である。運営推進会議において、災害対策についての検討会に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親近感があり、親しみやすい関係性も大切ではあるものの、節度ある対応を管理者はミーティング等通じて繰り返し説明し、何気ない日常の中で見落とすことのないように職員へ働きかけている。	プライバシー保護に関する研修は年間を通じて行っている。管理者は、職員ミーティングで「傾聴、支援、会話」など、常に利用者一人ひとりの人格を尊重することを繰り返し伝えている。浴室やトイレ、居室等も、プライバシーに配慮した環境となっている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんが選択できる方法を考え、お茶などをの飲まれる際にも、わかりやすくデザインされた物を提示し選んでいただくなどで工夫し、日常の衣服も手に取り、選びやすい状況作りに努めている。TVを見ながら好みの食べ物を聞き、献立に取り入れるようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が作り出した仕事に追われ。本来、すべき事を見失わないように、管理者は日常から職員へお願いし続け、日々利用者さんが穏やかに過ごすご自分で選択出来る環境づくりに努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニュー構成を考え提供する事で喜んでいただけるように取り組んでいる。利用者さんの何気ない一言でその日のメニューを決めたりもしている。可能な範囲で食材の下ごしらえもお手伝いをお願いし、やりがいに繋げている。	三食共、手作りの食事を提供し、職員も一緒に食べながら利用者の状態を把握するよう努めている。希望の献立を聞いたり、調理方法を利用者から教えてもらうこともある。利用者も、下ごしらえやおやつ作りなど、出来る事で関わられるよう支援し、食べる楽しみにつなげている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎食記録し把握するように努めている。栄養面に配慮し可能な範囲で利用者さんの好みの物を提供するようにも努めている。また、医師とも連携し利用者さんの状態によっては、指示を仰ぐようにもしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、職員は必要に応じて口腔ケアをさせて頂き義歯の不具合などを確認し、毎月一回の歯科医師による往診の際に情報提供し指示を受けて連携し、利用者さんが口腔内を快適にしていただけるように取り組んでいる。	食後の口腔ケアは、利用者全員が取り組んでいる。出来ない部分は職員が補助しながら、見守りで支援している。月1回歯科医の往診があり、利用者の口腔状態を伝えながら、指示を仰ぎ、一人ひとりの口腔内の清潔保持に努めている。	

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	紙パンツやパットを使用している方もいるが、全員トイレで自立して排泄されている。入所時紙パンツ使用から、布パンツにパットを当てる事へ変更された方もみえる。職員は、本人の安心を最重要として支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者さんの意思を一番に優先し、タイミングなどに配慮させて頂き、ゆったりと入浴していただけるように努めている。また、季節感も取り入れて、入浴剤や菖蒲などを用いた入浴日も設けている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤者からの申し送り、昨夜眠れていたかを聞き、日中眠い時は、自室で休んでもらう等日勤者は配慮している。日中は、なるべく散歩等活動していただけるよう働きかけている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と相談し、全職員が薬の目的や効果等をわかりやすく出来るように資料提供し、服薬の際にもファイルで確認している。また、薬の変更時も注意深く状態を観察し情報を共有するように努めている。	薬剤は、管理者、看護師が保管場所にて適切に管理している。処方薬の変更時は看護師が全職員に説明し、注意事項を周知させている。毎回、ファイルで確認作業をし、口の中に残っていないかを確認し、ヒヤリハットや事故を防止している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農家だった方に草取りやキュウリを育てて収穫を一緒にしてもらった。貼り絵や塗り絵の他ホームで使う新聞紙で作るゴミ袋作り、食事のお品書き、感染対策で行う手すりの消毒作業や雑巾洗い等快くやっていただけのことをお願いする等力を活かす支援をしている。折り鶴を折る方の支援もしている。	職員は、利用者それぞれの得意なこと、経験ある作業や清掃、草取り、作品作り等の活動を支援している。また、職員は利用者が出来る事で、役割を担えるようサポートし、「ありがとう、助かります」の感謝の言葉を伝えながら、利用者の生き甲斐につなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さんの何気ないつぶやきを、介護計画にとり入れご家族と情報を共有し、希望に添えるようにご家族へも働きかけ、自宅にもどる畑仕事をしたり、公園での外食を娘さんと楽しんでいただけた。	その日の天候と、利用者の健康状態に応じて柔軟に外出支援をしている。近隣の散歩、時には手作り弁当を持参し公園で食べるなど、楽しい時間を過ごせるよう工夫している。今後は外出の機会を多く計画し実行する予定である。	

岐阜県 グループホーム陽だまり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭・貴重品については、トラブルに十分配慮する観点から、入所時にご家族と相談し立替での購入をお願いしており、ご家族と出掛ける際に買い物などの協力をお願いしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の希望もありLINEを活用して、テレビ電話を試みたり、混乱がみられた利用者の方へは、従来どうりの電話で対応させて頂いている。ご家族へは、対応しやすい時間等に配慮している。家族等へ宛てた年賀状作成も支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、利用者さんが何気ない生活の中で体を動かし、筋力低下・姿勢の維持などができるように、職員が日々考え試行錯誤している。また、寒暖差についても工夫をして快適生活できるようにしている。	共用空間は広く清潔で、食事の場所とくつろぎの場所が区分され、休む時はソファで寛ぐことが出来る。外から地域住民の声が聞こえてきたり、食事の調理中には匂いがするなど、家庭的な居心地よい場所になっている。居室は利用者と共に掃除をし、個性を尊重した部屋作りを行っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でお一人になられている時は、本人様のご意思に配慮し、利用者さん同士が思い思いの部屋へ行き来される際は、トラブルに配慮することで利用者さんが居心地の良い生活が出来るように工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時からご家族と相談させていただき、ご本人さんが馴染みの家具・配置などに考慮し、また必要に応じて配置替えを試み、居心地の良い空間作りに工夫をしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺り等安全に配慮はした構造は、もちろんではあるが、必要以上に職員が介助してしまわないように、管理者は利用者さんの自立した生活を見守り対応の大切さも同時に果たえて、少しでも自立度の高い生活が続くように努めている。		